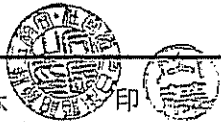
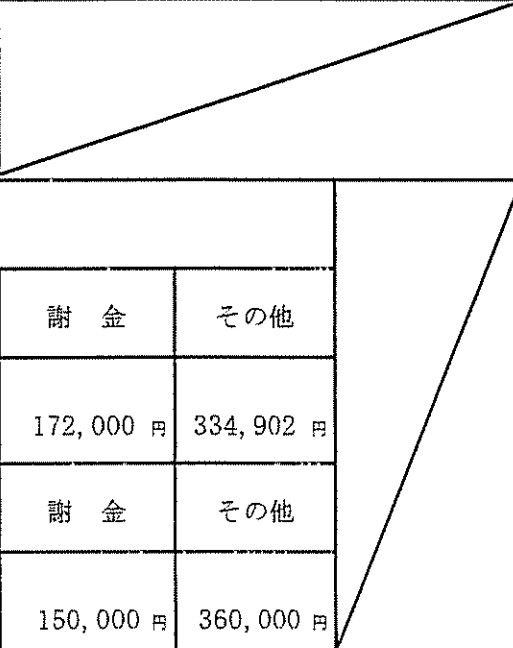


平成18年度科学研究費補助金実績報告書

平成18年 9月13日

文 部 科 学 大 臣 殿

		課題番号						
		1	8	5	2	0	2	8
主催団体	〒105-0012							
所在地	東京都港区芝大門 2-12-9 浜松町矢崎ホワイトビル							
主 催 団 体 名	社団法人 日本船舶海洋工学会	代表者職名	会 長					
		代表者氏名	内藤 林 					

シンポジウム・ 学術講演会名	おもしろ船教室・船・海の不思議実験と体験乗船（3支部共通） （副題：7月20日は海の記念日、みんなで海のことを考えよう）				
実施主体 （支部等）	東部支部	代表者職名	支部長		
		代表者氏名	角 洋一		
開催日	平成18年 8月 2日（水）				
会場名	はまどり（横浜市所有船）横浜シンポジア 開催地：横浜（東部支部）				
参加者数 （参加予定者数）	応募は約250名であったが乗船定員により絞 100人 ----- (100人)				
費目別収支決算表					
実支出額の 使用内訳	合計	会場借料			
交付申請書 に記載した 補助金の 使用内訳	合計	会場借料	消耗品費	謝金	その他
	880,254 円	213,150 円	160,202 円	172,000 円	334,902 円
	880,000 円	220,000 円	150,000 円	150,000 円	360,000 円



シンポジウム・学術 講演会の目的	<p>海洋国日本のためには船や海洋構造物が必要である。しかしながら、これらの実態については日常接する機会は少なく、しかも輸入貨物の99%以上を船が担っている事実はあまり知られていない。今後も日本がこの分野で世界をリードしていくためには、次世代を担う若い人に最新の研究とその成果を理解し興味を持ってもらうことが大切である。そこで、当学会では、海の記念日が祝日に指定されたのを契機に、船舶・海洋関連の技術、科学との係わり合い、地球環境との係わり合い、さらに21世紀への夢を紹介するとともに、水槽を用いた実験ならびに体験乗船などを行うこととした。</p>
シンポジウム・学術 講演会の概要	<p>東部支部では小学生の高学年（5年、6年）、中学生とその父兄約100名を対象として、</p> <p>（1）午前中は、横浜市の協力を得て海事広報艇「はまどり」にて横浜港およびその機能を海側から見ながらの体験乗船を行った。コンテナヤードではダイナミックに稼働中の船を安全に間近から見る事ができた。“はまどり”は総トン数300トンのアルミ船で、船内にはAV設備も完備しており体験だけでなく学習が可能である。なお応募総数は約250名であったが乗船定員により抽選で100名に絞った。</p> <p>（2）午後は横浜大棧橋近くの国際会議場に場所を移し、日本における外国との貨物輸送量のうち99%以上が船によるものであること、最新の船・技術の紹介のあと実験とクイズを主体とした“浮力”、“復原性”、“安定性”、“プロペラ推進”、“飛行船”、“海の波”など多彩な内容を実験を主体としてわかりやすく説明した。波の実験には新たに作製したアクリル製の小型水槽を持ち込み使用し、津波を再現して避難方法についても考えてもらった。</p> <p>正面大スクリーンにはビデオカメラによる映像を拡大投影することにより、遠くからでも詳細な観察を可能とした。学会創立100周年を機にその前年から実施してきた11年目であったが、次年度は更に充実したものになりたいと考えている。なお本講演会実施に当っては準備・リハーサルを含めて横浜国立大学の学部生・院生の多大な協力を得た。</p>

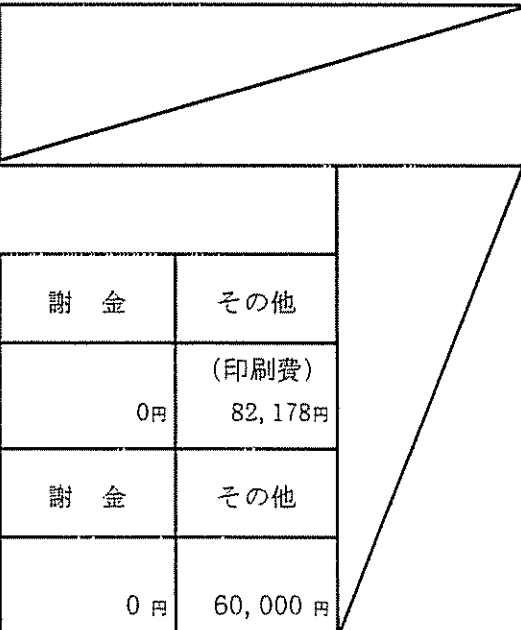
主催団体の 事務 連絡者	〒105-0012 東京都港区芝大門 2-12-9 浜松町矢崎ホワイトビル TEL:03(3438)2014
所属・職名	(社) 日本船舶海洋工学会事務局・会計主事 (内線)
氏名	保坂 俊 FAX: 03(3438)2016 E-mail: office@jasnaoe.or.jp

平成18年度科学研究費補助金実績報告書

平成18年 9月26日

文 部 科 学 大 臣 殿

		課題番号	1	8	5	2	0	3	0
主催団体	〒105-0012								
所在地	東京都港区芝大門 2-12-9 浜松町矢崎ホワイトビル								
主催 団体名	社団法人 日本船舶海洋工学会	代表者職名	会 長						
		代表者氏名	内藤 林  印 						

シンポジウム・ 学術講演会名	おもしろ船教室・船・海の不思議実験と体験乗船（3支部共通） （副題：7月20日は海の記念日、みんなで海のことを考えよう）							
実施主体 （支部等）	関西支部	代表者職名	支部長					
		代表者氏名	奥野武俊					
開催日	平成18年7月17日（月） 平成18年8月22日（火）、23日（水） 平成18年8月25日（金）、26日（土）							
会場名	大阪大学船舶海洋試験水槽，船舶海洋工学部門教室等（大阪大学） 練習船「深江丸」（神戸大学） 大阪府立大学A5棟大講義室（大阪府立大学） 開催地：大阪・神戸（関西支部）							
参加者数 （参加予定者数）	大阪大学 162人 神戸大学 30人 大阪府立大学 74人 計266人 (190人)							
費目別収支決算表								
実支出額の 使用内訳	合 計	会場借料				消耗品費	謝 金	その他
	310,000円	(深江丸) 100,000円				(教材費) 127,822円	0円	(印刷費) 82,178円
交付申請書 に記載した 補助金の 使用内訳	合 計	会場借料	消耗品費	謝 金	その他			
	310,000円	100,000円	150,000円	0円	60,000円			



シンポジウム・学術 講演会の目的	<p>島国日本の生命線である海上輸送を担うためには船が、また海洋空間利用を図るには海洋構造物が必要である。しかしながら、これらの機能を発揮するための技術および科学の実態については日常接する機会は少なく、しかも輸入貨物の99%以上を船が担っている事実はあまり知られていない。また厳しい競争下でもわが国の建造量のシェアは世界の一、二位を争いかつ造船技術もなお世界に誇れるものであることもあまり知られていない。</p> <p>世界的にエネルギー問題・環境問題が言われる中で、今後も日本の船舶・海洋開発技術が世界をリードしていくためには、エネルギー問題・環境問題にも配慮しながら、次世代を担う若い人に最新の研究とその成果を理解し興味を持ってもらうことが大切である。また科学技術創造立国を標榜するわが国としては、船・海の問題を通しての若者の理科離れ防止も重要である。</p> <p>当学会では海の記念日が祝日に指定されたのを契機に、特に最新の船・海洋構造物についてその技術、科学との係わり合い、地球環境との係わり合い、さらに21世紀への夢を紹介するとともに、水槽を用いた実験ならびに体験乗船を行ってきたが、更に平成17年度に名称を船舶海洋工学会に改め、東部・関西・西部の3支部が設置されたのを機に3支部で共通理念のもとに講演会を企画開催することにした。(3支部共通)</p>
シンポジウム・学術 講演会の概要	<p>(大阪大学) 7月17日、大阪大学吹田キャンパス近辺の小学生を対象に、学内の船舶海洋工学分野に関する実験施設を公開し、身近な材料を使って流体力学の原理を体験・理解する実験講義を行った。公開した実験施設は、長さ100mの船舶海洋試験水槽(曳航水槽)と15m/sの風場を再現できる風洞である。これらの実験施設では模型(船)を使ったデモ実験を行った。講義実験では、教室にて、空缶、粘土、ペットボトルなどを使って、浮力やベルヌーイの圧力理論などに基づいた実験を行い、小学生自らがその原理を見出すことをサポートする形式で講義を行った。</p> <p>(神戸大学) 8月22日~23日の2日間、深江丸を用いて、神戸大学海事科学部より小豆島・内海湾までの往復の航海を行った。航海中、(1)船のはなし、(2)船の浮くわけと安定性、(3)船と星の関係の3つをテーマに取り上げ、プログラムを実施した。また、本セミナーの重要な構成要素である集団生活での協調性や自立心、リーダーシップの涵養については、食事の準備、後片付け、清掃などの日常生活での自己管理と、船橋当直や心肺蘇生体験、救命胴衣をつけての退船訓練などを行った。</p> <p>(大阪府立大学) 8月25日~26日の2日間、堺市近郊の小学生高学年を対象に、学内の学術交流会館多目的ホールにおいて、「知ろう!遊ぼう!サイフォンの原理」と題したセミナーを開催した。セミナーでは、実験とクイズをとおしてサイフォンの原理のメカニズムを学ぶとともに、同原理を利用したポンプについて体験した。また、同原理を利用した工作を実施した。</p>

主催団体の	〒105-0012 東京都港区芝大門 2-12-9 浜松町矢崎ホワイトビル TEL:03(3438)2014		
事務	所属・職名 (社) 日本船舶海洋工学会事務局・会計主事 (内線)		
連絡者	氏名	保坂 俊	FAX: 03(3438)2016
E-mail: office@jasnaoe.or.jp			

平成18年度科学研究費補助金実績報告書

平成18年 9月13日

文 部 科 学 大 臣 殿

		課題番号						
		1	8	5	2	0	2	9
主催団体	〒105-0012							
所在地	東京都港区芝大門 2-12-9 浜松町矢崎ホワイトビル							
主 催 団 体 名	社団法人 日本船舶海洋工学会	代表者職名	会 長					
		代表者氏名	内藤 林  印 					

シンポジウム・ 学術講演会名	おもしろ船教室・船・海の不思議実験と体験乗船（3支部共通） （副題：7月20日は海の記念日、みんなで海のことを考えよう）				
実施主体 （支部等）	西部支部	代表者職名	実行委員長		
		代表者氏名	土井康明		
開催日	平成18年 8月18日（金）				
会場名	大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）		開催地：呉市		
参加者数 （参加予定数）	90人				
	(80人)				
費目別収支決算表					
実支出額の 使用内訳	合計	会場借料	消耗品費	謝金	その他
	310,000円	0円	167,930円	100,000円	42,070円
交付申請書 に記載した 補助金の 使用内訳	合計	会場借料	消耗品費	謝金	その他
	310,000円	0円	150,000円	110,000円	50,000円

シンポジウム・学術 講演会の目的	<p>島国日本の生命線である海上輸送を担うためには船が、また海洋空間利用を図るには海洋構造物が必要である。しかしながら、これらの機能を発揮するための技術および科学の実態については日常接する機会は少なく、しかも輸入貨物の99%以上を船が担っている事実はあまり知られていない。今後も日本の船舶・海洋開発技術が世界をリードしていくためには、次世代を担う若い人に最新の研究とその成果を理解し興味を持ってもらうことが大切である。</p> <p>当学会では海の記念日が祝日に指定されたのを契機に、特に最新の船・海洋構造物についてその技術、科学との係わり合い、地球環境との係わり合い、さらに21世紀への夢を紹介するとともに、水槽を用いた実験ならびに体験乗船を行ってきたが、更に平成17年度に名称を船舶海洋工学会に改め、3支部が設置されたのを機に3支部で本講演会を企画開催することにした。</p>
シンポジウム・学術 講演会の概要	<p>呉市海事歴史科学館「大和ミュージアム」において、船・海に関わる科学の面白さ、さらには物づくりの楽しさを体験することを目的として以下の講演及び実技を提供した。</p> <p>(1) 浮力のはなし (2) 船のつよさ (3) 動力船の製作とレース</p> <p>小学生高学年を対象に募集を行ったところ、約140組の応募があった。その中から36組を抽選で選び、参加人数90名で実施した。午前中には「浮力のはなし」、「船のつよさ」を実施した。「浮力のはなし」においては、水槽や粘土をもちいて、浮力に関する不思議実験を多数実施した。「船のつよさ」においては、紙を用いて船の強度と内部構造に関する実験を実施した。午後は、バルサ材を用いた動力船の製作を行った。製作後は「大和ミュージアム」の造波水槽を用いてタイムトライアルレースを行った。レースは大変盛況であり、レース終了後は成績優秀者に賞状を授与した。今回実施した講演及び実技はどれも盛況であり、今後の小学生向け参加型学習事業に取り入れていく予定である。</p>

主催団体の	〒105-0012 東京都港区芝大門 2-12-9 浜松町矢崎ホワイトビル TEL:03(3438)2014		
事務	所属・職名 (社) 日本船舶海洋工学会事務局・会計主事 (内線)		
連絡者	氏名 保坂 俊		FAX: 03(3438)2016 E-mail: office@jasnaoe.or.jp